

新聞におけるカタカナ語

——世代差からみた使用度，理解度，言い換え語の必要度——

中 島 悦 子

1. はじめに

日本語の語彙には、固有の日本語である和語、古く中国から借用した漢語、西洋から借用した外来語（カタカナで表記されることから、以下カタカナ語とする）、これらの組み合わせによる混種語の4つがある。国立国語研究所の調査（『現代雑誌九十種の用字用語 1～3』1962～1964）によると、カタカナ語の使用率は和語や漢語に比べ、きわめて低いとある。しかしながら今日我々日常生活のまわりには言語分野，使用場面，使用者等ジャンルを問わず，カタカナ語の氾濫が非常に目につく。新聞・雑誌用語，テレビのコマーシャル用語，パソコン用語，ファッション関係の用語等をはじめ，日常会話にも頻繁に登場する。若者の使用度が高いカタカナ語（例えば「ワンセグ」等）が，高齢者には理解不能の言語として映る場合，あるいは逆に高齢者には使用度が高いカタカナ語（例えば「グループホーム」等）が若者には理解されにくい場合もあり，同じ日本人同士でもコミュニケーション活動に支障をきたす事態も起こっている。

他方，日本語に意識するとかえって原語の意味から離れてしまうカタカナ語もある。例えば「インストール」や「ダウンロード」等のパソコン用語，「ケアマネジャー」「ホームヘルパー」等の介護現場で使用される用語等は，原語に忠実であろうとすると日本語として説明が繁雑になり，かえって分かりにくくなる。これらはカタカナ語として定着させてしまうほうが理解されやすい。

日本語に欧米語の新しい概念をカタカナ語化して導入することが，日本語のグローバル化に貢献できるとすれば，それはまたそれで非常に望ましいことではある。歴史的にみても日本は過去において積極的に外来語を取り入れてきている。いうまでもなく漢語は奈良時代に導入された外来語の第1波である。その後中世から近世にかけてはポルトガル語，スペイン語，オランダ語を，幕末から明治時代にかけては英語，ドイツ語，フランス語，イタリア語を，外来語即ちカタカナ語として積極的に導入してきている。日本語は外来語を表記する専用のカタカナ文字を有するために，カタカナ語の流入を容易にしていることも事実である。しかし今日あまりに多くのカタカナ語が次々と流入し，その意味も理解されずに使用されているのが現状なのではあるまいか。

難解なカタカナ語は日本人だけの問題ではない。カタカナ語の原語を母語とする外国人の日本語学習者にとっても意味不明の日本語として習得上の困難点の1つとなっている。カタカナ語の理解が外国人にとって困難な点は，日本語の音節構造の特徴に起因することもある。例えば「ミルク」は，原語である英語では“milk”と1音節4文字であるが，この“milk”を日本語の音節構造（日

本語の1音節は1つの子音Cと1つの母音Vの組み合わせ—CV構造—が典型であり、必ず母音で終わる開音節構造である）にあてはめると、「ミ(mi)・ル(ru)・ク(ku)」と3音節に変化し、カタカナの3文字で表記されることになる。また、カタカナ語の原語を母語としない外国人の日本語学習者（例えば中国人日本語学習者）にとっても、カタカナ語の習得は日本語学習の困難点となっている。

このような分かりにくい外来語であるカタカナ語に対処する方法として、国立国語研究所（以下国研という）は2002年に「外来語委員会」を設けて「外来語の言い換え提案—分かりにくい外来語を分かりやすくするための言葉遣い—」という提案を4回にわたって発表し、その結果を2006年に『分かりやすく伝える外来語言い換え手引き』として刊行した。公共性の高い文章で使われている分かりにくい外来語を、第1回は2003年4月に62語、第2回は2003年11月に47語、第3回は2004年10月に32語、第4回は2006年3月に35語と、合計176語を取り上げ、その1つ1つに言い換えたり説明をつけたりして、分かりやすい表現のための具体的な方法を提案している。

また読賣新聞（2004.6.15 朝刊）の「日本語の現場」によると、杉並区役所の広報紙ではカタカナ語の言い換えが進み、例えば「フリートーク」が「話し合い」、「イベント」が「催し」に変わったほか、「クーリング・オフ制度」には「無条件解約制度」の注釈をつけているという。

さらに朝日新聞（2006.10.23 朝刊）において天野祐吉は「CM 天気図」の中で、「ワーキングプア＝勤労貧民層」を例に挙げ、なぜ「勤労貧民層」のままではいけないのか。「ワーキングプア」と言ったとたんに、「貧民」ということばの持つ強さが、実在感が、薄められてしまうではないか。カタカナ語には危ないワナがあると述べ、カタカナ語の乱用に警告を発している。

最近では読賣新聞（2007.12.9 朝刊）がカタカナ語に対処する工夫として、記者用手引の中で「カタカナ語は乱用しない」とした上で、①「デリバリー→配達、宅配」のように日本語で言い換える、②「シェア（市場占有率）」のように注釈を付ける、③文章の中で説明する、という3原則を示している。

本稿では、こうした国研の提案あるいは新聞や諸家の提言を踏まえ、さらに多くの分かりにくいカタカナ語を選定し、その使用度や理解度、定着度、言い換え語の必要度等を若年（20代～30代）と中高年（40代～60代以降）の世代別に調査することによって、現状のカタカナ語の氾濫に問題提起をしたいと思う。

2. 調査のあらまし

2.1 調査語数

調査対象としたカタカナ語は朝日新聞と読賣新聞（2004年～2005年）から採取し、次の方法で語数を選定した。まず、①新聞にカタカナ語のみで言い換え語の併記がなく、国研にも言い換え語の提案がないもの20語、②新聞には言い換え語の併記はないが、国研に言い換え語の提案があるもの20語、③新聞には言い換え語が併記されているが、国研には言い換え語の提案がないもの30語、④新聞に言い換え語の併記があり、国研にも言い換え語の提案があるもの10語の合計80語である。

以下に選定した80語のカタカナ語を①②③④の分類ごとに列挙する。なお、②の言い換え語は国研に依るもの、③の言い換え語は新聞に依るもの、④の言い換え語は新聞と国研に依るものである。

①アウトドア、アイテム、アウトサイダー、グループホーム、クローン、コスト、コメント、スローライフ、セレクトショップ、ニーズ、ネットワーク、ノウハウ、ペイオフ、ポップス、マイノリティ、メディア、ユーザー、リスク、リストラ、リピーター

②アクセス〈接続、交通手段、参入〉、インサイダー〈内部者、内部〉、インパクト〈衝撃、影響〉、ガイドライン〈指針、手引、指標〉、デリバリー〈配達、宅配〉、グローバル〈地球規模〉、ケア〈介護、手当て、手入れ〉、コラボレーション〈共同作業、共同制作〉、コンセンサス〈合意〉、シミュレーション〈模擬実験〉、セキュリティ〈安全性、安全対策、保安〉、デイサービス〈日帰り介護〉、バリアフリー〈障壁除去〉、ビジョン〈展望〉、プレゼンテーション〈発表、提示、提案説明〉、プロトタイプ〈原型、試作モデル、典型〉、モチベーション〈動機付け、やる気、意欲〉、リアルタイム〈同時、即時、同時進行〉、リニューアル〈改装、改修、刷新〉、マネジメント〈経営管理〉

③イシュー〈論点〉、コーポレート・ガバナンス〈企業統治〉、コモンセンス〈常識〉、サイレントマジョリティー〈物言わぬ多数派〉、シビリアン・コントロール〈文民統制〉、シナジー〈相乗効果〉、スキミング〈盗み取り〉、ダウンサイジング〈少子高齢化〉、ニート〈無業者〉、ネオコン〈新保守主義〉、ネグレクト〈養育放棄〉、ハードネゴシエーター〈強硬な交渉相手〉、ハローワーク〈公共職業安定所〉、ブロードバンド〈高速大容量通信〉、ファンド〈基金〉、プロテクト〈優先確保〉、プロモーター〈発起人、興行主〉、ポピュリズム〈大衆迎合〉、ホームロイヤル〈かかりつけ弁護士〉、マニフェスト〈政権公約〉、マネーサプライ〈通貨供給量〉、マネーロンダリング〈資金洗浄〉、リコール〈無料回収、修理〉、リユース〈再使用〉、リサイクル〈再利用〉、リデュース〈ゴミの減量〉、リーズナブル〈お手ごろ〉、リターン〈収益〉、リテール〈個人向け取引〉、ロードマップ〈行程表〉

④アイデンティティ〈固有性、独自性、自己認識〉、インターラクティブ〈双方向の、双方向性〉、インフラ〈社会基盤〉、コンテンツ〈情報内容、内容、番組〉、コンプライアンス〈法令順守〉、スキーム〈枠組み、計画〉、セーフガード〈緊急輸入制限〉、セーフティネット〈安全網〉、バーチャリアリティ〈仮想現実〉、モラルハザード〈倫理の荒廃〉

2.2 調査方法

選定したカタカナ語80語の使用度、理解度、言い換え語の必要度、外来語の増加に対する是非等を、次のような方法を用いて調査した。

若年世代（20代～30代）30名と中高年世代（40代～60代以降）30名の計60名にアンケート調査を実施した。参考までに実施したカタカナ語のアンケート調査表を〈表1〉として次に掲げておく。

〈表1〉：カタカナ語に関するアンケート調査表

①調査年月日： 年 月 日

世代：20代 30代 40代 50代 60代以降

性別：男 女

職業：会社員 自営業（商店等） 専業主婦 学生 その他

居住地 : 東京近郊 地方

新聞を読む： よく読む 時々読む あまり読まない 全然読まない

普段カタカナ語を使う：よく使う

その理由→

あまり使わない

その理由→

カタカナ語を聞いて分かる：よく分かる。

その理由→

あまり分からない (分からず困ったことがある)

その理由→

カタカナ語の言い換え語：必要である（併記すべきだ）

その理由→

必要ではない（カタカナ語のみの表記でよい）

その理由→

今後カタカナ語の増加：好ましい

好ましくない

②列挙した個々のカタカナ語についてお聞きしたいと思います。いずれかの番号を（ ）の中にお入れください。

(1) カタカナ語の理解と使用

- A 意味が分かる，聞いたことがある，よく使う
B 意味が分かる，聞いたことがある，時々使う
C 意味は分かる，または聞いたことがあるが，使わない
D 意味が分からない，または聞いたことがないので，使わない

(2) 言い換え語が必要か否か

- イ カタカナ語のみの表記でいい（カタカナ語でよく分かる）
- ロ カタカナ語の表記だけでは分からないので、言い換え語を併記すべきだ
- ハ カタカナ語の表記は必要ない、言い換え語のみの表記にすべきだ（言い換え語のほう
が分かる）
- ニ 言い換え語はよく分からない、カタカナ語のほうがよく分かる

以上の質問を①②③④のカタカナ語個々について、(1)の「カタカナ語の理解と使用」ではA～D、(2)の「言い換え語が必要か否か」ではイ～ニまでの記号で記入するという方法で、調査を実施した。なお、カタカナ語の①～④までの個々の具体例を1つずつ挙げておく。

- | | | |
|-----------|------------------|-------------------------|
| ①アウトドア | | (1) () (2) () |
| ②アクセス | 〈接続, 交通手段, 参入〉 | (1) () (2) () |
| ③イシュー | 〈論点〉 | (1) () (2) () |
| ④アイデンティティ | 〈固有性, 独自性, 自己認識〉 | (1) () (2) () |

3. 世代差からみた一般的なカタカナ語の使用度, 理解度, 言い換え語の必要度

一般的なカタカナ語の使用度と理解度における世代差を、〈表1〉のアンケート調査表の「普段カタカナ語を使う」項目と「カタカナ語を聞いて分かる」項目の比率からみる。

まずカタカナ語の使用度については、「よく使う」とする項目では若年世代が60%, 中高年世代が40%, 「あまり使わない」項目では若年世代40%, 中高年世代60%となっており、カタカナ語を使うと回答した者は若年世代のほうが若干高い。理解度については「よく分かる」とする項目では若年世代が26.7%, 中高年世代が33.3%, 「あまり分からない」とする項目では若年世代が73.3%, 中高年世代が60%であり、両世代ともにカタカナ語に対してはよく分からないと答えた比率が高い。つまり、使用度においては若年世代のほうが若干高くなっているが理解度においては両世代ともに低いという結果となっている。

次に一般的なカタカナ語に対する言い換え語の必要度を世代別にみる。アンケート調査表ではカタカナ語の言い換え語を「必要である (併記すべきだ)」「必要ではない (カタカナ語のみの表記でよい)」という項目の比率である。言い換え語を「必要である (併記すべきだ)」と答えた若年世代は83.3%, 中高年世代は76.7%とどちらも高い比率が示されている。「カタカナ語のみの表記でよい」とする若年世代は僅かに13.3%, 中高年世代も10%に過ぎない。両世代ともにカタカナ語単独の表記よりも、カタカナ語に言い換え語を併記する必要性を強く要求している。

今後カタカナ語の増加に対してどう思うかという調査では、カタカナ語増加を「好ましい」とする項目では若年世代が36.7%, 中高年世代が16.7%, 「好ましくない」とする項目では若年世代が53.3%, 中高年世代が66.7%とあり、両世代ともにカタカナ語の増加を好ましくないと答えた比率のほうが高い。

ちなみに「新聞を読む」項目では「よく読む」「時々読む」とする若年世代は53.3%しかなく、中高年世代の96.7%に比べると、若年世代の新聞離れの傾向がうかがわれる。

以上、一般的なカタカナ語の使用度, 理解度, 言い換え語の必要度を世代差でみると、次のようなことがいえよう。使用度は若年世代のほうが若干高いが、使用率自体は両世代ともに高いとはいえない。理解度についてはその比率の低さにおいて世代差がなく、言い換え語の必要度についてはその比率の高さにおいて世代差がない。つまり若年世代, 中高年世代ともにその多くがカタカナ語をあまり使用していない, よく分からない, 言い換え語が必要である, 今後の増加については好ま

しくない、と答えているのである。

そこで次章において、選定したカタカナ語80語の1つ1つについて、その使用度、理解度、言い換え語の必要度等を世代差からみていくことにする。

4. 世代差からみたカタカナ語80語の使用度、理解度、言い換え語の必要度

4.1 新聞にカタカナ語表記のみあり、国研に言い換え語提案のない20語

〈表1〉のアンケート調査表の①としたカタカナ語20語の数値と比率を付表〈表1-1〉として巻末に掲げておく。

まず新聞にはカタカナ語表記のみで言い換え語の併記がなく、国研にも言い換え語の提案がない20語についてそれぞれの使用度と理解度を世代差からみる。〈表1-1〉の単語の「A+B」の合計の比率が100%~70%のものは十分に理解され、よく使用されているカタカナ語、30%以下のものが理解されにくく、かつ使用されていないカタカナ語とみなす。

若年世代・中高年世代ともに使用度、理解度が100%~70%（「A+B」の比率、以下同様）前後のカタカナ語つまり世代差があまりないものは、コメント、アウトドア、コスト、メディア、リスク、ネットワーク、ユーザー、リストラ、アイテムとなっている。個々の使用率、理解率を具体的に示すと、中高年世代においてコメント、コスト、リスク、リストラ、ネットワークが100%、ユーザー、アウトドアが96.7%、メディアが90%、アイテムが66.7%となっており、若年世代においてはコメントが93.4%、アウトドアが86.7%、コスト、メディアは80%、リスク、ネットワークが76.6%、ユーザーが73.3%、リストラ、アイテムが66.7%とあるように、これらのカタカナ語は両世代ともによく使われ、理解もされている語である。

世代によって使用度、理解度に大きく差があるものは次のようなものである。ノウハウ、リピーター、ニーズ、クローン、ポップス等は中高年世代においては使用度や理解度が高いのに、若年世代においては使用度、理解度が低いものである。例えば、ノウハウは若年世代が53.4%、中高年世代が96.7%、ニーズは若年世代が46.6%、中高年世代が83.3%とその差が大きい。またセレクトショップ、ペイオフ、スローライフ、マイノリティ、アウトサイダー、グループホーム等も使用度、理解度は若年世代では25%~3.3%しかなく、分かりにくいカタカナ語となっているのに対し、中高年世代では50%前後あり、使用度、理解度に世代差がある。

つまり、使用度、理解度において〈表1-1〉のグループのカタカナ語は中高年世代においては20語すべて比較的によく使用され、理解され得る語であるのに対して、若年世代においては上位2分の1のカタカナ語は使用され、理解され得る語であるが、下位2分の1のカタカナ語はあまり使用されず、理解され得ない語となっている。

こうして新聞に言い換え語が併記されていないカタカナ語つまり定着したカタカナ語と認知されているものでもその使用度、理解度には世代差が生じている。このように理解度、使用度に世代差が生じるのは、新聞を読むか読まないかに依ることも大きな要因となっているようである。アンケート調査表の数値から新聞をよく読む中高年世代はカタカナ語の使用度、理解度が大きく、あまり

新聞を読まない若年世代はカタカナ語の使用度、理解度が低いことが推測される。

次に、言い換え語の併記の必要度と不必要度とを世代別にみる。「イ＋ニ」の比率100%～70%が言い換え語の必要がない、即ちカタカナ語のみの表記でよいもの、「イ＋ニ」の比率が30%以下、「ロ＋ハ」の比率が100%～70%のものは言い換え語の併記が必須のもの、即ち定着していないカタカナ語である。「イ＋ニ」「ロ＋ハ」が各々60%～50%前後が定着に向かっていているカタカナ語として、場合によっては言い換え語の併記を必要とするものである。

若年、中中年ともに「イ＋ニ」の比率が100%～70%前後で言い換え語の不必要なもの即ち定着していると考えられるカタカナ語は、上位からリストラ、アウトドア、リスク、ネットワーク、ポップス、ノウハウ等である。例えば、若年世代においてリストラ、アウトドアは93.3%，リスク、ネットワークは86.7%の高率を示し、中中年世代においてもリストラ、アウトドアは83.3%，ネットワーク、ポップスは80%の高率となっており、これらには世代差がみられない。

若年世代（「イ＋ニ」の比率90%～80%前後）のほうが、中中年世代（「イ＋ニ」の比率60%～40%前後）より20%以上高いものは、コメント、メディア、リピーター、ユーザー、アイテム、コスト、クローン、ニーズであり、これらは世代差が大きい。但し、言い換え語の必要度はないとみてよい。

若年世代、中中年世代ともに言い換え語の必要度が高いもの、即ち「イ＋ニ」が30%～10%前後の低率のものは、スローライフ、ペイオフ、マイノリティ、グループホーム、アウトサイダー等である。つまりこれらの語は両世代ともに「ロ＋ハ」の比率が70%～90%前後のものであり、その意味で世代差はない。なお、セレクトショップのように、「イ＋ニ」の比率が若年世代が46.6%，中中年世代が26.6%と世代差のあるものもある。

〈表1－1〉のカタカナ語をその定着度から検証する。「A＋B」「イ＋ニ」の比率100%～70%が十分定着しているカタカナ語、60%～50%が定着に向かって進行しつつあるカタカナ語、40%前後が定着に向かう可能性のあるカタカナ語、30%以下が非定着のカタカナ語であるとすると、次のことがいえるかと思う。

若年世代、中中年世代ともに十分定着しているカタカナ語はアウトドア、リスク、ネットワークにリストラ、ポップス、ノウハウを加えた6語で、言い換え語の併記の必要性のないものである。また、定着している語のうち、世代によって定着度に差のある語はコメント、メディア、リピーター、ユーザー、アイテム、コスト、クローン、ニーズの8語で、使用度、理解度では中中年世代が高いのに対して、言い換え語の必要度の比率では若年世代のほうが高い。以上の14語は必ずしも言い換え語の併記を必要としないものであろう。

若年世代、中中年世代ともに非定着のカタカナ語はセレクトショップ、スローライフ、ペイオフ、マイノリティ、グループホーム、アウトサイダーの6語で、言い換え語の併記が必要のものである。

こうして新聞に言い換え語の併記がなく、国研にも言い換え語の提案のないカタカナ語として選定した20語のうちで6語即ち30%の語が世代を問わず非定着のカタカナ語として言い換え語の併記を必要としているのである。理解されにくい非定着のカタカナ語は日本語で言い換えるかあるいは

言い換え語を併記するか検討の要がありそうである。

4.2 新聞にカタカナ語表記のみあり、国研に言い換え語提案のある20語

〈表1〉のアンケート調査表②のカタカナ語20語の数値と比率を〈表1-2〉として付表に挙げておく。〈表1-2〉の20語は新聞にはカタカナ語のみで、言い換え語が併記されていないが、国研に言い換え語の提案があるものである。

〈表1-2〉のカタカナ語20語個々について、「A+B」の比率からその使用度と理解度を世代別にみていく。

上位7位までのリアルタイム、ケア、リニューアル、セキュリティ、アクセス、プレゼンテーション、バリアフリーの7語は若年世代・中高年世代ともに使用度、理解度が90%~70%（「A+B」の比率、以下同様）あるものである。例えば、リアルタイムは若年世代が93.4%、中高年世代が80%、ケアは若年世代が83.4%、中高年世代が80%、リニューアルが若年世代83.3%、中高年世代80%、アクセスが若年世代80%、中高年世代86.6%といずれも高率で、世代差がない。

両世代ともに使用度、理解度が70%~60%（「A+B」の比率、以下同様）を占めるものはモチベーション、グローバル、インパクト、シミュレーション、デリバリーの5語となっている。例えば、モチベーションは若年世代が70%、中高年世代が66.7%、グローバルは若年世代が63.3%、中高年世代が76.7%で、これらも世代差のないものである。

しかしながら、下位8語のデイサービス、ビジョン、ガイドライン、コラボレーション、マネジメント、プロトタイプ、インサイダー、コンセンサスは世代差が大きく、「A+B」の比率をみると、若年世代の使用度、理解度は高くても50%前後、低いものでは10%以下のものもあり、これらは若年世代にはあまり使用されず、理解されにくいカタカナ語となっている。但し、これらは中高年世代では高いもので80%前後、低くても40%前後と、使用度、理解度の比率は決して低くなく、理解されやすいカタカナ語となっている。

こうしたカタカナ語の使用度、理解度の世代差は前章で述べたように新聞の読者層が若年世代に多いのか中高年世代に多いのかに当然関係してくる。アンケート調査表でみた若年世代の新聞離れはカタカナ語の理解力を一層困難なものにしていることがうかがわれる。

次に言い換え語の併記の必要度を世代差からみる。「イ+ニ」の比率の高いものが言い換え語の併記が必要でないもの、「イ+ニ」の比率が低いものが言い換え語の併記を必要とするものである。

セキュリティ、インパクト、リニューアル、アクセス、ケア、バリアフリー、リアルタイム、シミュレーション、プレゼンテーションの9語は若年世代では「イ+ニ」の比率が100%~70%の高率であるが、中高年世代ではアクセスの63.3%を除いては大多数が50%~40%台で、リニューアル、プレゼンテーション、シミュレーションに至っては30%台の低率である。これらの9語は若年世代は言い換え語の併記を必要としていないが、中高年世代はすべて言い換え語の併記を必要としており、世代差の大きいカタカナ語となっている。

さらにデリバリー、グローバル、モチベーション、コラボレーション等も若年世代は「イ+ニ」

の比率が60%～50%であるのに対し、中高年世代は30%～10%の低率を示し、カタカナ語に言い換え語の併記を必要とするものである。

若年世代、中高年世代ともに「イ＋ニ」の比率が20%以下の低率を示し、カタカナ語に言い換え語の併記を要求するものはプロトタイプ、インサイダー、コンセンサスの3語である。

以上をまとめると、次のことがいえるかと思う。カタカナ語の使用度、理解度の比率と定着度、言い換え語の必要度の比率は必ずしも一致しない。世代によって使用度、理解度と定着度、言い換え語の必要度が異なるようである。中高年世代はカタカナ語の使用度、理解度が高くても、カタカナ語のみの表記よりも言い換え語の併記を要求するものが多い。他方、若年世代はカタカナ語の使用度、理解度は中高年世代より低い、言い換え語の併記の必要をそれほど要求せず、カタカナ語のみの表記でもよいという結果となっている。

両世代ともに非定着のカタカナ語はプロトタイプ、インサイダー、コンセンサスで、この3語は国研の提案通り新聞に言い換え語の併記を必要とするものとなっている。また、デリバリー、デイスサービス、グローバル、モチベーション、ガイドライン、マネジメント、ビジョン、コラボレーションの8語は世代によって使用度、理解度が異なり（例えばデイスサービス、ビジョン、ガイドラインは中高年世代のほうが理解度が高い）、定着に向かっていくカタカナ語ではあるものの、言い換え語の併記が望ましいものである。つまり20語のうち11語即ち55%の語が両世代ともに言い換え語の併記を要求していることになる。

残りの9語、セキュリティ、インパクト、リニューアル、アクセス、ケア、バリアフリー、リアルタイム、シミュレーション、プレゼンテーションは定着している語として新聞においてはカタカナ語のみの表記でもよさそうである。

こうしてみると、新聞に言い換え語の併記はないが、国研には言い換え語の提案のあるカタカナ語はその55%の語が非定着となっており、新聞においては国研の提案通り言い換え語を併記するかあるいはカタカナ語ではなく日本語で言い換えて示したほうがよさそうである。

4.3 新聞に言い換え語併記があるが、国研に言い換え語提案のない30語

〈表1〉の③のカタカナ語30語の数値と比率を〈表1－3〉として付表に示す。

〈表1－3〉の30語は新聞に言い換え語の併記があるが、国研に言い換え語の提案がないカタカナ語である。

〈表1－3〉に従って、まず「A＋B」の比率からカタカナ語30語の使用度と理解度を世代別にみることにする。

リサイクルは若年世代が93.3%（「A＋B」の比率、以下同様）、中高年世代が100%、リーズナブルは若年世代が80%、中高年世代が86.6%と、上位2語は世代を問わず使用度、理解度が高く、既にカタカナ語として定着しているものである。5位までのブロードバンド、ニート、ハローワークも両世代ともに60%前後の使用率、理解率を示し、今後定着に向かう可能性が大きいカタカナ語である。以上は世代差のないものであるが、次のように世代差のあるものもある。例えば、リコー

ルは若年世代30%，中高年世代60%，ファンドは若年世代が16.6%，中高年世代60%，ロードマップは若年世代が6.7%，中高年世代が60%とあるように，中高年世代には理解され得るものであっても若年世代には理解が困難なものもある。

30語のうち以上の8語を除いた22語も若年世代にとってはすべて使用度，理解度が25%（「A+B」の比率，以下同様）以下を示し，分かりにくいカタカナ語となっている。特にイシュー，プロモーター，マネーロンダリング，コーポレートガバナンス，ホームロイヤルは3.3%，ネオコン，ポピュリズム，シナジー，ダウンサイジング，ハードネゴシエーター，リテールに至っては0%と若年世代にとっては理解不能のカタカナ語である。

では中高年世代ではどうか。22語のうち，ロードマップ，リユース，リターン，コモンセンス，プロモーター，マニフェスト，マネーロンダリング等の7語は60%～40%前後の比率で定着の可能性があるが，他の15語は30%～10%以下の比率で分かりにくいカタカナ語となっている。

次に，「イ+ニ」の比率即ち言い換え語の必要度からカタカナ語30語を世代別にみる。

リサイクルは若年世代86.7%（「イ+ニ」の比率，以下同様），中高年世代56.7%とあるように，両世代ともに言い換え語の必要度のないもの，即ち定着したカタカナ語である。リーズナブル，ブロードバンド，ニート，ハローワークの4語も70%～50%前後でこれも強いて言い換え語を必要としないカタカナ語と考えてよいだろう。つまり上位5語は言い換え語が不要のもの，即ち定着しているカタカナ語として世代差のないものといえそうである。また，リコールは若年世代33.4%，中高年世代33.3%とあるように，定着の可能性がある，言い換え語を必要としないと考えてよさそうである。

しかしながら両世代ともに全30語のうちの24語は言い換え語が必要な語となっている。「イ+ニ」の比率が30%～20%を示すものはスキミング，リユース，プロテクト，マニフェスト，リターンの5語，20%～10%を示すものはコモンセンス，ネグレクト，リデュース，シビリアン・コントロール，マネーロンダリング，ロードマップ，ファンド，プロモーター，ハードネゴシエーターの9語，10%～0%はホームロイヤル，ポピュリズム，マネーサプライ，リテール，サイレントマジョリティー，ネオコン，シナジー，コーポレート・ガバナンス，ダウンサイジング，イシューの10語である。これらの24語は言い換え語の併記の必要度が高いものとしてカタカナ語が非定着のものとみることができる。これら国研に言い換え語の提案がないものでも30語のうち24語即ち80%の語が両世代ともに言い換え語の必要度が高く，使用度，理解度の上でも低率を示しており，新聞に言い換え語が併記されているのは当然のことである。

4.4 新聞に言い換え語併記があり，国研に言い換え語提案のある10語

〈表1〉の④のカタカナ語10語を〈表1－4〉として付表に示す。

〈表1－4〉のカタカナ語10語は新聞に言い換え語の併記があり，国研にも言い換え語の提案があるもので，最も難解と考えられるカタカナ語である。

まず「A+B」の比率即ち使用度と理解度から10語を世代別にみていく。

上位1位のアイデンティティは若年世代70%（「A+B」の比率，以下同様），中高年世代83.4%とあるように使用度，理解度の上からは定着度の高いカタカナ語と考えられ，世代差はない。両世代ともに使用度，理解度が50%～40%前後で定着に向かう可能性のある語はバーチャルリアリティー，コンテンツの2語のみで，これらも世代差がない。中高年世代に40%前後の比率で定着の可能性のあるのはインフラ，セーフティネットの2語である。他のカタカナ語は若年世代が6.7%～0%，中高年世代も30%以下で，両世代ともにすべて理解不能の難解語となっている。インフラ，セーフティネットを除く8語は使用度，理解度の上では比率の高いものにおいてもあるいは低いものにおいても世代差がないといえる。

次に「イ+ニ」の比率即ち言い換え語の必要度から世代別に10語をみるとどうか。

上位1位のアイデンティティは若年世代が60%（「イ+ニ」の比率，以下同様）あり，必ずしも言い換え語の必要性を要求していないが，中高年世代では33.3%しかなく，言い換え語の併記の必要性を要求しており，その点で世代差のあるものである。その他の9語を見ると，若年世代，中高年世代ともに30%～10%の比率を示すものはバーチャルリアリティー，コンテンツ，セーフティネットの3語，10%以下はインフラ，モラルハザート，インターラクティブ，セーフガード，スキーム，コンプライアンスの6語で，すべて言い換え語の併記を必要としている非定着のカタカナ語である。これらの9語は言い換え語の併記を必要としているという点で世代差がない。

国研に言い換え語の提案が示され，新聞にも当然言い換え語が併記されている〈表1—4〉の語は以上の調査からも分かるように全10語のうちアイデンティティを除く9語即ち90%が非定着のカタカナ語となっている。これらの非定着のカタカナ語は書き手つまり作る側より読み手つまり使う側の理解という面から，新聞にはカタカナ語の表記より，むしろ言い換え語としての日本語を表記するほうが望ましいと思われる。

5. おわりに

新聞におけるカタカナ語の氾濫に警鐘を鳴らす意味で，朝日新聞と讀賣新聞から採取したカタカナ語80語について，その使用度，理解度および言い換え語の必要度等を若年と中高年の世代別に調査した。調査結果は以下の通りである。

まず一般的なカタカナ語における意識調査を世代別にみると，使用度では若年世代のほうがやや高い傾向にあるが，使用率そのものは両世代ともに低率である。理解率の低さにおいても，言い換え語の必要度の高さにおいても世代差がない。つまり両世代ともにカタカナ語の使用率，理解率が低く，言い換え語の併記を必要としており，さらに将来カタカナ語の増加をよしとしていないのである。

次に選定した80語個々のカタカナ語について世代別にみると，新聞にも国研にも言い換え語の併記や提案のない語，即ち定着したと想定される語の30%，新聞にはカタカナ語のみの表記だが，国研に言い換え語の提案のあるカタカナ語の55%，新聞には言い換え語の併記があるが，国研に言い

換え語の提案のないカタカナ語の80%, 新聞にも国研にも言い換え語の併記, 提案があるカタカナ語の90%が若年世代, 中高年世代ともに言い換え語の併記を必要としているのである。つまり定着したと想定されるカタカナ語でもその3分の1から2分の1の語は世代差なく言い換え語の併記を必要としている。カタカナ語の発信源である新聞は読み手の理解しやすさを基準に難解なカタカナ語に対処する方策をさまざまな形で示し, カタカナ語の乱用に歯止めをかけてほしい。

引用・参考文献

- 朝日新聞 (2006.10.23朝刊) 天野祐吉「CM 天気図」
- 石綿敏雄 (1978)「外来語の歴史」『月刊言語』2月号 大修館書店
- 〃 (2001)『外来語の総合的研究』東京堂出版
- 井上道雄 (1998)「カタカナ語表記への言語心理学からの提案: 読みやすい語表記をめざして一文節表記」『神戸山手女子短期大学紀要』41
- 〃 (2004)「カタカナ語(外来語)基本語彙550語—その語彙特性と選定基準—」『神戸山手大学紀要』6
- 国立国語研究所 (1962~1964)『現代雑誌九十種の用字用語1~3』秀英出版
- 〃 「外来語委員会」編 (2006)『分かりやすく伝える外来語言い換え手引き』きょうせい
- 橋本五郎監修 読賣新聞日本語取材班 (2004)『乱れているか? テレビの言葉』新日本語の現場 第2集 中央公論新社
- 飛田良文 (2005)「外来語研究の方法」『日本近代語研究4』—飛田良文博士古稀記念—近代語研究会編 ひつじ書房
- 前田太郎 (1922)『外来語の研究』岩波書店
- 矢崎源九郎 (1964)『日本の外来語』岩波新書
- 読賣新聞 (2004. 6. 15朝刊)「日本語の現場」
- 〃 (2007.12. 9 朝刊)「来信返信 新聞に聞きたい」

付表 アンケート調査表によるカタカナ語の数値と比率

〈表 1-1〉 新聞にカタカナ語表記のみあり、国研に言い換え語提案のない20語

順位 番号	単 語	若 年 世 代			中 高 年 世 代	
		数		%	数	%
1	コメント	A	22	73.4	24(7)	80
		B	6(1)	20	6(3)	20
		C	2	6.7		
		D				
		イ	27(1)	90	19(7)	63.3
		ロ	2	6.7	8(2)	26.7
		ハ			2(1)	6.7
		ニ	1	3.3	1	3.3
2	アウトドア	A	17(1)	56.7	23(7)	76.7
		B	9	30	6(2)	20
		C	4	13.3	(1)	3.3
		D	0		0	
		イ	25(1)	83.3	24(6)	80
		ロ	2	6.7	(3)	10
		ハ			2(1)	6.7
		ニ	3	10	1	3.3
3	コスト	A	13	43.3	23(8)	76.7
		B	11(1)	36.7	7(2)	23.3
		C	5	16.7		
		D	1	3.3		
		イ	22	73.4	19(6)	63.3
		ロ	3	10	11(4)	36.7
		ハ	3	10		
		ニ	2	6.7		
4	メディア	A	15	50	20(5)	66.7
		B	9(1)	30	7(4)	23.3
		C	6	20	3(1)	10
		D				
		イ	22	73.4	17(7)	56.7
		ロ	3(1)	10	10(2)	33.3
		ハ	1	3.3	(1)	3.3
		ニ	4	13.3	2	6.7
5	リスク	A	16(1)	53.3	22(9)	73.3
		B	7	23.3	8(1)	26.7
		C	7	23.3		
		D				
		イ	26(1)	86.7	23(8)	76.7
		ロ	2	6.7	5(2)	16.7
		ハ	2	6.7	2	6.7
		ニ				

6	ネットワーク	A	13	43.3	22(6)	73.3
		B	10	33.3	8(4)	26.7
		C	6	20		
		D	1	3.3		
		イ	23(1)	76.7	23(8)	76.7
		ロ	4	13.3	6(2)	20
		ハ				
		ニ	3	10	1	3.3
7	リストラ	A	17	56.7	25(7)	83.3
		B	3	10	5(3)	16.7
		C	10(1)	33.3		
		D				
		イ	26(1)	86.7	25(7)	83.3
		ロ	1	3.3	5(3)	16.7
		ハ	1	3.3		
		ニ	2	6.7		
8	ユーザー	A	9	30	16(6)	53.3
		B	13(1)	43.3	13(4)	43.3
		C	7	23.3	1	3.3
		D	1	3.3		
		イ	23(1)	76.7	20(8)	66.7
		ロ	5	16.7	6(2)	20
		ハ			4	13.3
		ニ	2	6.7		
9	リピーター	A	13	43.3	18(5)	60
		B	5	16.7	6(2)	20
		C	11(1)	36.7	4(1)	13.3
		D	1	3.3	(2)	6.7
		イ	25(1)	83.3	15(3)	50
		ロ	3	10	11(7)	36.7
		ハ	1	3.3	3	10
		ニ	1	3.3	1	3.3
10	アイテム	A	12	40	10(5)	33.3
		B	8	26.7	10(2)	33.3
		C	10(1)	33.3	6(1)	20
		D				
		イ	24	80	14(3)	46.7
		ロ	3	10	12(4)	40
		ハ	2(1)	6.7	4(3)	13.3
		ニ	1	3.3		
11	ポップス	A	8	26.7	16(6)	53.3
		B	9	30	10(2)	33.3
		C	9(1)	30	3(2)	10
		D	4	13.3	1	3.3

		イ	20	66.7	23(6)	76.7
		ロ	7(1)	23.3	6(3)	20
		ハ	2	6.7		
		ニ	1	3.3	(1)	3.3
12	ノウハウ	A	5	16.7	21(8)	70
		B	11(1)	36.7	8(2)	26.7
		C	13	43.3	1	3.3
		D	1	3.3		
		イ	18	60	21(8)	70
		ロ	7	23.3	6(1)	20
		ハ	2	6.7	2	6.7
		ニ	3	10	(1)	3.3
13	クローン	A	9	30	10(3)	33.3
		B	7	23.3	8(1)	26.7
		C	14(1)	46.7	12(6)	40
		D				
		イ	21(1)	70	19(4)	63.3
		ロ	6	20	9(5)	30
		ハ			(1)	3.3
		ニ	3	10	1	3.3
14	ニーズ	A	7(1)	23.3	21(7)	70
		B	7	23.3	4	13.3
		C	16	53.3	5(3)	16.7
		D				
		イ	20(1)	66.7	18(5)	60
		ロ	8	26.7	7(3)	23.3
		ハ	1	3.3	4(2)	13.3
		ニ	1	3.3	1	3.3
15	セレクトショップ	A	5	16.7	9(2)	30
		B	3	10	3	10
		C	15(1)	50	12(5)	40
		D	7	23.3	6(3)	20
		イ	13	43.3	7(1)	23.3
		ロ	14(1)	46.7	14(5)	46.7
		ハ	2	6.7	8(4)	26.7
		ニ	1	3.3	1	3.3
16	ペイオフ	A	3	10	10(3)	33.3
		B	4	13.3	9(1)	30
		C	18(1)	60	11(6)	36.7
		D	5	16.7		
		イ	8	26.7	10(1)	33.3
		ロ	17	56.7	16(8)	53.3
		ハ	4	13.3	4(1)	13.3
		ニ	1	3.3		

17	スローライフ	A	2	6.7	10(3)	33.3
		B	1	3.3	5(1)	16.7
		C	20(1)	66.7	13(5)	43.3
		D	7	23.3	2(1)	6.7
		イ	9(1)	30	10(2)	33.3
		ロ	17	56.7	12(5)	40
		ハ	3	10	8(3)	26.7
		ニ	1	3.3		
18	マイノリティ	A	2	6.7	10(4)	33.3
		B	5	16.7	5(2)	16.7
		C	12(1)	40	9(2)	30
		D	11	36.7	6(2)	20
		イ	7	23.3	6(2)	20
		ロ	17(1)	56.7	20(8)	66.7
		ハ	5	16.7	4	13.3
		ニ	1	3.3		
19	アウトサイダー	A	1	3.3	9(5)	30
		B			8(1)	26.7
		C	10	33.3	12(4)	40
		D	19(1)	63.3	1	3.3
		イ	4	13.3	10(3)	33.3
		ロ	22(1)	73.3	15(5)	50
		ハ	4	13.3	5(2)	16.7
		ニ				
20	グループホーム	A			11(3)	36.7
		B	1	3.3	4	13.3
		C	9	30	10(4)	33.3
		D	20(1)	66.7	5(3)	16.7
		イ	3	10	10(1)	33.3
		ロ	22(1)	73.3	11(5)	36.7
		ハ	5	16.7	9(4)	30
		ニ				

〈表 1－2〉 新聞にカタカナ語表記のみあり、国研に言い換え語提案のある20語

順位 番号	単 語	若 年 世 代 数 %			中 高 年 世 代 数 %	
1	リアルタイム 〈同時，即時，同時進行〉	A	11	36.7	14(6)	46.7
		B	17(1)	56.7	10(1)	33.3
		C			6(3)	20
		D	2	6.7		
		イ	21(1)	70	12(3)	40
		ロ	6	20	9(5)	30
		ハ	2	6.7	6(1)	20
		ニ	1	3.3	3(1)	10
2	ケア 〈介護，手当て，手入れ〉	A	11	36.7	16(5)	53.3
		B	14(1)	46.7	8(1)	26.7
		C	5	16.7	6(4)	20
		D				
		イ	22(1)	73.3	12(1)	40
		ロ	5	16.7	11(5)	36.7
		ハ	1	3.3	7(4)	23.3
		ニ	2	6.7		
3	リニューアル 〈改装，改修，刷新〉	A	15	50	17(6)	56.7
		B	10(1)	33.3	7	23.3
		C	4	13.3	5(3)	16.7
		D	1	3.3	(1)	3.3
		イ	25(1)	83.3	9(1)	30
		ロ	4	13.3	10(3)	33.3
		ハ	1	3.3	9(6)	30
		ニ			2	6.7
4	セキュリティ 〈安全性，安全対策，保安〉	A	11	36.7	13(5)	43.3
		B	14(1)	46.7	9(2)	30
		C	5	16.7	7(3)	23.3
		D			1	3.3
		イ	24(1)	80	12(2)	40
		ロ	4	13.3	8(3)	26.7
		ハ			10(5)	33.3
		ニ	2	6.7		
5	アクセス 〈接続，交通手段，参入〉	A	13	43.3	19(5)	63.3
		B	11(1)	36.7	7(4)	23.3
		C	6	20	4(1)	13.3
		D				
		イ	23(1)	76.7	16(4)	53.3
		ロ	5	16.7	6(3)	20
		ハ	1	3.3	5(2)	16.7
		ニ	1	3.3	3(1)	10

6	プレゼンテーション 〈発表, 提示, 提案説明〉	A	10	33.3	13(6)	43.3
		B	13	43.3	10(2)	33.3
		C	6(1)	20	5	16.7
		D	1	3.3	(2)	6.6
		イ	20	66.7	10(2)	33.3
		ロ	8(1)	26.7	13(4)	43.3
		ハ	1	3.3	7(4)	23.3
		ニ	1	3.3		
7	バリアフリー 〈障壁除去〉	A	8	26.7	20(6)	66.7
		B	14	46.7	7(2)	23.3
		C	7(1)	23.3	3(2)	10
		D	1	3.3		
		イ	20(1)	66.7	14(2)	46.7
		ロ	5	16.7	11(6)	36.7
		ハ	1	3.3	4(2)	13.3
		ニ	4	13.3	1	3.3
8	モチベーション 〈動機付け, やる気, 意欲〉	A	9	30	12(5)	40
		B	12(1)	40	8(2)	26.7
		C	8	26.7	7(1)	23.3
		D	1	3.3	3(2)	10
		イ	14(1)	46.7	4	13.3
		ロ	12	40	15(5)	50
		ハ	2	6.7	11(5)	36.7
		ニ	2	6.7		
9	インパクト 〈衝撃, 影響〉	A	13	43.3	19(5)	63.3
		B	9(1)	30	8(4)	26.7
		C	7	23.3	3(1)	10
		D	1	3.3		
		イ	23(1)	76.7	15(4)	50
		ロ	3	10	6(2)	20
		ハ	2	6.7	9(4)	30
		ニ	2	6.7		
10	グローバル 〈地球規模〉	A	6	20	14(5)	46.7
		B	13	43.3	9(4)	30
		C	9(1)	30	7(1)	23.3
		D	2	6.7		
		イ	16	53.3	10(1)	33.3
		ロ	8	26.7	14(6)	46.7
		ハ	6(1)	20	5(2)	16.7
		ニ			(1)	3.3
11	シミュレーション 〈模擬実験〉	A	8	26.7	12(5)	40
		B	13(1)	43.3	12(4)	40
		C	7	23.3	6(1)	20
		D	2	6.7		

		イ	19(1)	63.3	9(2)	30
		ロ	5	16.7	13(4)	43.3
		ハ	3	10	6(3)	20
		ニ	3	10	2(1)	6.7
12	デリバリー 〈配達, 宅配〉	A	9	30	14(4)	46.7
		B	8(1)	26.7	6(2)	20
		C	13	43.3	10(4)	33.3
		D				
		イ	19	63.3	9	30
		ロ	7	23.3	10(6)	33.3
		ハ	4(1)	13.3	11(4)	36.7
		ニ				
13	デイサービス 〈日帰り介護〉	A	6	20	18(4)	60
		B	7	23.3	6(2)	20
		C	16(1)	53.3	5(3)	16.7
		D	1	3.3	(1)	3.3
		イ	14	46.7	16(2)	53.3
		ロ	13(1)	43.3	9(4)	30
		ハ	1	3.3	5(4)	16.7
		ニ	2	6.7		
14	ビジョン 〈展望〉	A	5	16.7	15(5)	50
		B	6	20	7(2)	23.3
		C	18	60	8(3)	26.7
		D	1	3.3		
		イ	14	46.7	10(1)	33.3
		ロ	12(1)	40	11(7)	36.7
		ハ	3	10	9(2)	30
		ニ	1	3.3		
15	ガイドライン 〈指針, 手引, 指標〉	A	2	6.7	14(7)	46.7
		B	9	30	8(2)	26.7
		C	16(1)	53.3	8(1)	26.7
		D	3	10		
		イ	11	36.7	14(5)	46.7
		ロ	15(1)	50	7(3)	23.3
		ハ	3	10	9(2)	30
		ニ	1	3.3		
16	コラボレーション 〈共同作業, 共同制作〉	A	4	13.3	5(2)	16.7
		B	12(1)	40	6(2)	20
		C	7	23.3	16(5)	53.3
		D	7	23.3	3(1)	10
		イ	15(1)	50	3	10
		ロ	9	30	16(5)	53.3
		ハ	6	20	10(5)	33.3
		ニ			1	3.3

17	マネジメント 〈経営管理〉	A	4	13.3	13(6)	43.3
		B	3	10	7(2)	23.3
		C	15(1)	50	10(2)	33.3
		D	8	26.7		
		イ	11	36.7	12(4)	40
		ロ	13(1)	43.3	8(2)	26.7
		ハ	5	16.7	8(3)	26.7
		ニ	1	3.3	2(1)	6.7
18	プロトタイプ 〈原型，試作モデル，典型〉	A	3	10	(2)	6.7
		B	1	3.3	5(3)	16.7
		C	14(1)	46.7	15(3)	50
		D	12	40	8(2)	26.7
		イ	6	20	8(2)	26.7
		ロ	14(1)	46.7	11(3)	36.7
		ハ	8	26.7	11(5)	36.7
		ニ	2	6.7		
19	インサイダー 〈内部者，内部〉	A	1	3.3	11(5)	36.7
		B	1	3.3	12(3)	40
		C	14	46.7	7(2)	23.3
		D	14(1)	46.7		
		イ	1	3.3	12(4)	40
		ロ	20(1)	66.7	9(3)	30
		ハ	8	26.7	7(1)	23.3
		ニ	1	3.3	(2)	6.7
20	コンセンサス 〈合意〉	A			11(5)	36.7
		B	1	3.3	5(3)	16.7
		C	7	23.3	11(2)	36.7
		D	22(1)	73.3	3	10
		イ			2(1)	6.7
		ロ	16(1)	53.3	18(6)	60
		ハ	12	40	9(3)	30
		ニ	2	6.7	1	3.3

〈表 1-3〉 新聞に言い換え語併記があるが、国研に言い換え語提案のない30語

順位 番号	単 語	若 年 世 代 数 %			中 高 年 世 代 数 %	
1	リサイクル 〈再利用〉	A	19(1)	63.3	25(6)	83.3
		B	9	30	5(4)	16.7
		C	2	6.7		
		D				
		イ	26(1)	86.7	17(4)	56.7
		ロ	3	10	9(3)	30
		ハ	1	3.3	4(3)	13.3
		ニ				
2	リーズナブル 〈お手ごろ〉	A	13(1)	43.3	19(3)	63.3
		B	11	36.7	7(4)	23.3
		C	3	10	4(3)	13.3
		D	3	10		
		イ	22(1)	73.3	14(3)	46.7
		ロ	4	13.3	9(1)	30
		ハ	4	13.3	6(5)	20
		ニ			(1)	3.3
3	ブロードバンド 〈高速大容量通信〉	A	6(1)	20	11(3)	36.7
		B	12	40	6(3)	20
		C	8	26.7	12(3)	40
		D	4	13.3	(1)	3.3
		イ	15(1)	50	6(1)	20
		ロ	8	26.7	17(7)	56.7
		ハ	3	10	5(1)	16.7
		ニ	4	13.3	2(1)	6.7
4	ニート 〈無業者〉	A	7	23.3	9(3)	30
		B	11	36.7	9(2)	30
		C	8	26.7	9(3)	30
		D	4	13.3	3(2)	10
		イ	14(1)	46.7	9(1)	30
		ロ	10	33.3	10(3)	33.3
		ハ	4	13.3	7(3)	23.3
		ニ	2	6.7	4(3)	13.3
5	ハローワーク 〈公共職業安定所〉	A	6	20	13(3)	43.3
		B	9	30	6(2)	20
		C	13(1)	43.3	11(5)	36.7
		D	2	6.7		
		イ	18(1)	60	15(1)	50
		ロ	10	33.3	10(5)	33.3
		ハ	2	6.7	5(4)	16.7
		ニ				

6	リコール 〈無料回収・修理〉	A	3	10	7(4)	23.3
		B	6	20	11(2)	36.7
		C	20(1)	66.7	8(3)	26.7
		D	1	3.3	4(1)	13.3
		イ	8	26.7	9(2)	30
		ロ	18(1)	60	11(3)	36.7
		ハ	2	6.7	9(5)	30
		ニ	2	6.7	1	3.3
7	スキミング 〈盗み取り〉	A	2	6.7	2(1)	6.7
		B	6	20	6(2)	20
		C	20(1)	66.7	18(5)	60
		D	2	6.7	4(2)	13.3
		イ	10	33.3	3	10
		ロ	18(1)	60	13(4)	43.3
		ハ	1	3.3	12(5)	40
		ニ	1	3.3	2(1)	6.7
8	ファンド 〈基金〉	A	1	3.3	9(4)	30
		B	4	13.3	9(3)	30
		C	16	53.3	11(3)	36.7
		D	9(1)	30		
		イ	2	6.7	9(3)	30
		ロ	17	56.7	14(4)	46.7
		ハ	10(1)	33.3	6(2)	20
		ニ	1	3.3	(1)	3.3
9	リターン 〈収益〉	A	4	13.3	9(3)	30
		B	2	6.7	2(1)	6.7
		C	13(1)	43.3	12(4)	40
		D	11	36.7	7(2)	23.3
		イ	5	16.7	5(2)	16.7
		ロ	16(1)	53.3	12(1)	40
		ハ	6	20	13(7)	43.3
		ニ	3	10		
10	マニフェスト 〈政権公約〉	A	1	3.3	5(1)	16.7
		B	5	16.7	6(3)	20
		C	18(1)	60	15(4)	50
		D	6	20	4(2)	13.3
		イ	7	23.3	3	10
		ロ	14	46.7	15(3)	50
		ハ	9(1)	30	12(7)	40
		ニ				
11	プロテクト 〈優先確保〉	A	1	3.3	3(2)	10
		B	5(1)	16.7	6(1)	20
		C	12	40	12(4)	40
		D	12	40	9(3)	30

		イ	5	16.7	7(2)	23.3
		ロ	9(1)	30	10(2)	33.3
		ハ	13	43.3	11(4)	36.7
		ニ	3	10	(2)	6.7
12	リユース 〈再使用〉	A	1	3.3	8(2)	26.7
		B	4	13.3	4(1)	13.3
		C	14(1)	46.7	13(5)	43.3
		D	11	36.7	5(2)	16.7
		イ	10	33.3	8(1)	26.7
		ロ	12(1)	40	12(3)	40
		ハ	8	26.7	10(6)	33.3
		ニ				
13	コモンセンス 〈常識〉	A	1	3.3	7(3)	23.3
		B	3	10	3(2)	10
		C	13(1)	43.3	15(4)	50
		D	13	43.3	5(1)	16.7
		イ	4	13.3	4(1)	13.3
		ロ	14	46.7	12(3)	40
		ハ	12(1)	40	14(6)	46.7
		ニ				
14	リデュース 〈ゴミの減量〉	A			5(2)	16.7
		B	4	13.3	2(1)	6.7
		C	12(1)	40	11(4)	36.7
		D	14	46.7	12(3)	40
		イ	5	16.7	2	6.7
		ロ	16(1)	53.3	13(2)	43.3
		ハ	9	30	15(8)	50
		ニ				
15	ネグレクト 〈養育放棄〉	A			4(2)	13.3
		B	4	13.3	4	13.3
		C	6(1)	20	9(1)	30
		D	20	66.7	13(7)	43.3
		イ	3	10	4(1)	13.3
		ロ	10(1)	33.3	9(1)	30
		ハ	15	50	15(6)	50
		ニ	2	6.7	(2)	6.7
16	シビリアン・ コントロール 〈文民統制〉	A	1	3.3	4(3)	13.3
		B	2	6.7	3(1)	10
		C	13(1)	42.3	12(4)	40
		D	14	46.7	11(2)	36.7
		イ	5	16.7	2	6.7
		ロ	9	30	11(4)	36.7
		ハ	15(1)	50	17(6)	56.7
		ニ	1	3.3		

17	ロードマップ 〈行程表〉	A			8(4)	26.7
		B	2	6.7	10(2)	33.3
		C	11	36.7	5(2)	16.7
		D	17(1)	56.7	7(2)	23.3
		イ	2	6.7	3(1)	10
		ロ	13	43.3	14(1)	46.7
		ハ	12(1)	40	12(7)	40
		ニ	3	10	(1)	3.3
18	マネーサプライ 〈通貨供給量〉	A	1	3.3	4(3)	13.3
		B	1	3.3	3(2)	10
		C	7	23.3	14(3)	46.7
		D	21(1)	70	9(2)	30
		イ	2	6.7	(1)	3.3
		ロ	14	46.7	18(3)	60
		ハ	14(1)	46.7	11(6)	36.7
		ニ				
19	サイレント マジョリティー 〈物言わぬ多数派〉	A			(2)	6.7
		B	2	6.7	2	6.7
		C	3	10	13(5)	43.3
		D	25(1)	83.3	13(3)	43.3
		イ	1	3.3		
		ロ	12	40	9(2)	30
		ハ	16(1)	53.3	20(7)	66.7
		ニ	1	3.3	(1)	3.3
20	イシュー 〈論点〉	A	1	3.3	6(4)	20
		B			1	3.3
		C	10	33.3	10(2)	33.3
		D	19(1)	63.3	13(4)	43.3
		イ	1	3.3		
		ロ	10	33.3	14(4)	46.7
		ハ	17(1)	56.7	16(6)	53.3
		ニ	2	6.7		
21	プロモーター 〈発起人，興行主〉	A	1	3.3	5(2)	16.7
		B			5(2)	16.7
		C	7	23.3	14(5)	46.7
		D	22(1)	73.3	6(1)	20
		イ	2	6.7	5(1)	16.7
		ロ	12	40	14(4)	46.7
		ハ	15(1)	50	10(5)	33.3
		ニ	1	3.3	1	3.3
22	マネーロンダリング 〈資金洗浄〉	A			6(3)	20
		B	1	3.3	5(3)	16.7
		C	6	20	12(2)	40
		D	23(1)	76.7	7(2)	23.3

		イ	2	6.7	4(1)	13.3
		ロ	10	33.3	15(5)	50
		ハ	15(1)	50	10(4)	33.3
		ニ	3	10	1	3.3
23	コーポレート・ ガバナンス 〈企業統治〉	A			(4)	13.3
		B	1	3.3	(2)	6.7
		C	6	20	13(4)	43.3
		D	23(1)	76.7	11	36.7
		イ				
		ロ	11	36.7	14(5)	46.7
		ハ	18(1)	60	16(5)	53.3
		ニ	1	3.3		
24	ホームロイヤー 〈かかりつけ弁護士〉	A	1	3.3	(1)	3.3
		B			2	6.7
		C	3	10	12(4)	40
		D	26(1)	86.7	15(5)	50
		イ	2	6.7	(1)	3.3
		ロ	10	33.3	13(2)	43.3
		ハ	17	56.7	16(7)	53.3
		ニ	1	3.3		
25	ネオコン 〈新保守主義〉	A			5(3)	16.7
		B			3	10
		C	7	23.3	8(2)	26.7
		D	23(1)	76.7	14(5)	46.7
		イ			3	10
		ロ	12	40	13(3)	43.3
		ハ	17(1)	56.7	12(5)	40
		ニ	1	3.3	(2)	6.7
26	ポピュリズム 〈大衆迎合〉	A			5(3)	16.7
		B			2(1)	6.7
		C	3	10	9(3)	30
		D	27(1)	90	14(3)	46.7
		イ	1	3.3	4(1)	13.3
		ロ	12	40	10(3)	33.3
		ハ	16(1)	53.3	15(5)	50
		ニ	1	3.3	(1)	3.3
27	シナジー 〈相乗効果〉	A			(2)	6.7
		B			3(2)	10
		C	6	20	11(2)	36.7
		D	24(1)	80	14(4)	46.7
		イ	1	3.3	1	3.3
		ロ	11	36.7	13(4)	43.3
		ハ	18(1)	60	16(6)	53.3
		ニ				

28	ダウンサイジング 〈少子高齢化〉	A			(2)	6.7
		B				
		C	3	10	7(3)	23.3
		D	27(1)	90	21(5)	70
		イ				
		ロ	12	40	9(2)	30
		ハ	18(1)	60	18(5)	60
		ニ			(3)	10
29	ハードネゴシエーター 〈強硬な交渉相手〉	A			2(1)	6.7
		B			3(1)	10
		C	8	26.7	10(4)	33.3
		D	22(1)	73.3	15(4)	50
		イ	1	3.3	4(1)	13.3
		ロ	15(1)	50	8(2)	26.7
		ハ	12	40	18(7)	60
		ニ	2	6.7		
30	リテール 〈個人向け取引〉	A			(1)	3.3
		B			(1)	3.3
		C	4	13.3	14(6)	46.7
		D	26(1)	86.7	14(2)	46.7
		イ	1	3.3	2(1)	6.7
		ロ	12	40	12(2)	40
		ハ	16(1)	53.3	16(7)	53.3
		ニ	1	3.3		

〈表 1－4〉 新聞に言い換え語併記があり、国研に言い換え語提案のある10語

順位 番号	単 語	若 年 世 代			中 高 年 世 代	
		数		%	数	%
1	アイデンティティ 〈固有性，独自性，自己認識〉	A	8	26.7	14(3)	46.7
		B	13(1)	43.3	11(4)	36.7
		C	9	30	5(3)	16.7
		D				
		イ	16	53.3	10(2)	33.3
		ロ	11(1)	36.7	15(4)	50
		ハ	1	3.3	(4)	13.3
		ニ	2	6.7		
2	バーチャルリアリティー 〈仮想現実〉	A	3	10	6(2)	20
		B	8	26.7	7	23.3
		C	16	53.3	12(4)	40
		D	(3)	10	5(4)	16.7
		イ	9	30	6	20
		ロ	15	50	11(3)	36.7
		ハ	5(1)	16.7	12(7)	40
		ニ	1	3.3	1	3.3
3	コンテンツ 〈情報内容，内容，番組〉	A	1	3.3	4(3)	13.3
		B	10(1)	33.3	9(3)	30
		C	16	53.3	12(2)	40
		D	3	10	5(2)	16.7
		イ	7	23.3	5	16.7
		ロ	21(1)	70	16(5)	53.3
		ハ	1	3.3	9(5)	30
		ニ	1	3.3		
4	インフラ 〈社会基盤〉	A	2	6.7	5(3)	16.7
		B			7(3)	23.3
		C	11	36.7	11(2)	36.7
		D	17(1)	56.7	7(2)	23.3
		イ	2	6.7	6(2)	20
		ロ	15	50	12(3)	40
		ハ	12(1)	40	12(5)	40
		ニ	1	3.3		
5	セーフガード 〈緊急輸入制限〉	A			4(3)	13.3
		B	2	6.7	2(1)	6.7
		C	16	53.3	18(4)	60
		D	12(1)	40	6(2)	20
		イ	2	6.7	1	3.3
		ロ	19	63.3	17(4)	56.7
		ハ	9(1)	30	12(6)	40
		ニ				

6	インターラクティブ 〈双方向の，双方向性〉	A			2(1)	6.7
		B	2	6.7	3(1)	10
		C	11	36.7	13(3)	43.3
		D	17(1)	56.7	12(5)	40
		イ	1	3.3	2(1)	6.7
		ロ	17	56.7	13(4)	43.3
		ハ	11(1)	36.7	15(5)	50
		ニ	1	3.3		
7	セーフティネット 〈安全網〉	A			6(3)	20
		B	1	3.3	4	13.3
		C	14	46.7	12(3)	40
		D	15(1)	50	8(4)	26.7
		イ	6	20	3	10
		ロ	16	53.3	14(2)	46.7
		ハ	8(1)	26.7	12(7)	40
		ニ			(1)	3.3
8	コンプライアンス 〈法令順守〉	A			5(3)	16.7
		B			3(2)	10
		C	2	6.7	8(2)	26.7
		D	28(1)	93.3	14(3)	46.7
		イ				
		ロ	11	36.7	14(5)	46.7
		ハ	18(1)	60	16(5)	53.3
		ニ	1	3.3		
9	モラルハザード 〈倫理の荒廃〉	A			4(3)	13.3
		B			1	3.3
		C	7	23.3	11(3)	36.7
		D	23(1)	76.7	14(4)	46.7
		イ	2	6.7	2(1)	6.7
		ロ	11	36.7	12(3)	40
		ハ	15(1)	50	16(6)	53.3
		ニ	2	6.7		
10	スキーム 〈枠組み，計画〉	A			(3)	10
		B			2(1)	6.7
		C	8	26.7	12(3)	40
		D	22(1)	73.3	13(3)	43.3
		イ	1	3.3	(1)	3.3
		ロ	13	43.3	10(1)	33.3
		ハ	16(1)	53.3	19(8)	63.3
		ニ				

(注： () 内の数字は男性の数値を表す)